

# 大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰（※）の概要について

（※）前回まで「大学等におけるインターンシップ表彰」として実施。令和4年度の三省合意一部改正を受けて、令和5年度より名称変更

## 目的

学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業等に普及するのに相応しいモデルとなり得る、産学協働による学生のキャリア形成支援活動を、グッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及する。

公募期間：令和5年11月1日～11月30日

対象資格：「大学等における学生のキャリア形成支援活動届出制度」における取組を実施している大学・短期大学・高等専門学校

申請件数：26校（大学：24校、短期大学：2校）

表彰：【最優秀賞】京都産業大学

【優秀賞】北海道大学、新潟大学、開志専門職大学

【選考委員会特別賞】大阪公立大学

## 大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考 基準・項目

- ① 就業体験を伴うこと
- ② 正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③ 大学等の組織的な取組として位置づけられていること
- ④ 実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤ 5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間が確保されていること
- ⑥ 大学等と企業等が協働した取組となっていること

## 受賞校一覧

| 大学等名               | 科目名   | 取組概要  |
|--------------------|---|---|
| 京都産業大学<br>最優秀賞     | 「キャリア実習（インターンシップ実践型）」、「キャリア実習（職場体験型）」                   | 基礎編である「キャリア実習（職場体験型）」と、実践編である「キャリア実習（インターンシップ実践型）」を組み合わせることで、学生の「仕事」や「働くこと」への理解を深めるとともに、実務で活用したい専門的能力、汎用的能力の明確化に資するプログラムを実施。 <ul style="list-style-type: none"><li>対象：全10学部 2年次、3年次 選択科目</li><li>参加学生：123名</li><li>事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：10日</li></ul> |
| 北海道大学<br>優秀賞       | 「インターンシップⅡ（工学部専門科目）」、「インターンシップ（インターンシップ第二）（大学院工学院専門科目）」 | 英語力、コミュニケーション力、リーダーシップ、応用力等の育成を目的に1か月以上の長期の海外企業へのインターンシップ研修を実施。 <ul style="list-style-type: none"><li>対象：工学部2～4年次、工学院修士課程1・2年次、博士後期課程1～3年次 選択科目</li><li>参加学生：10名</li><li>事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：15日以上</li></ul>   |
| 新潟大学<br>優秀賞        | 「課題解決インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」                                     | 実課題に対する「観察」・「分析」・「解決に至る実務」を通して総合的「工学力」を修得するPBL型教育プログラム。卒業研修・卒業研究として実施。 <ul style="list-style-type: none"><li>対象：工学部工学科協創経営プログラム 4年次 必修科目</li><li>参加学生：25名</li><li>事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：72日</li></ul>  |
| 開志専門職大学<br>優秀賞     | 「臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ」                                       | 2年次において、情報技術による課題解決策とその計画を立案・提案するプログラムを、3年次においては、課題解決策の設計・実装・検証することを目標としたプログラムを実施。 <ul style="list-style-type: none"><li>対象：情報学部 2年次、3年次 必修科目</li><li>参加学生：122名</li><li>事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：約100日</li></ul>  |
| 大阪公立大学<br>選考委員会特別賞 | 「イノベーション創出型研究者養成4（TEC4；研究リーダー養成特別演習）」                   | 3～4ヶ月の実習期間を設定し、企業からの課題提示を受けて、マーケット調査、研究計画・予算の立案、チーム編成、研究の進捗管理など、企業で行われる研究リーダーと同様の業務を経験するプログラムを実施。 <ul style="list-style-type: none"><li>対象：博士課程全研究科 選択科目</li><li>参加学生：2名</li><li>事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：10日</li></ul>                                   |

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的：創設時からの「産学協同」の理念に基づき、学内での「学び」と学外での「実践」を往還し、段階的に積み重ねる独自の教育プログラムによって、建学の精神の具現化を目指している。  
 対象：全10学部 2年次、3年次 選択科目、参加学生：123名、事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：10日  
 概要：基礎編である「キャリア実習（職場体験型）」と、実践編である「キャリア実習（インターンシップ実践型）」を組み合わせることで、学生の「仕事」や「働くこと」への理解を深めるとともに、実務で活用したい専門的能力、汎用的能力の明確化に資するプログラムとなっている。その運営には複数の地元企業と長年にわたって連携し、地域社会を担っていく人材の産学協働による育成にも繋がっている。

評価のポイント

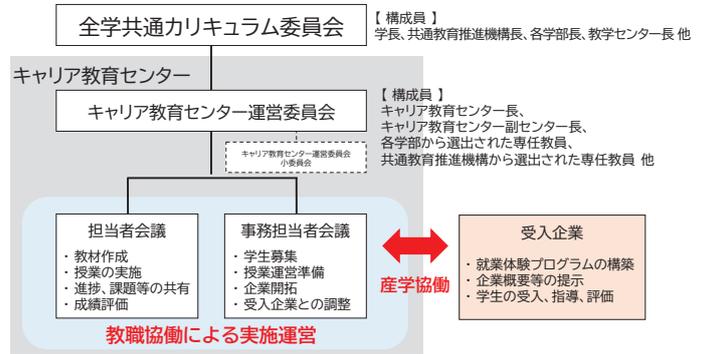
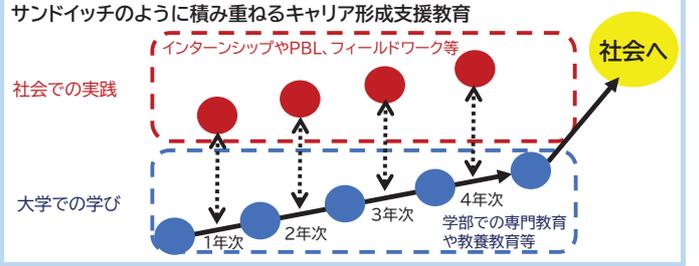
- COOP教育の考え方にに基づき、実習活動がしっかりと教育課程に組み込まれている。全10クラス123名という規模に対して、13~20名前後の少人数クラスでの授業を提供し、教員（非常勤含む）10名だけでなく事務職員との教職協働体制により、学生に対するきめ細やかなサポートが行われている。
- 全学的なアセスメントプランに基づいた「キャリア実習科目に関する学習状況調査」を実施することで、学習到達度（成果）を定量的に把握することに加えて、当該結果を学生にも個別にフィードバックすることで振り返りの機会を提供するなど、当該プログラム実施後の教育的効果を把握する取組が適切に行われている。
- 教員間で指導のバラつきがないように『ティーチングガイドブック』を準備するとともに、担当教員を対象としたFDを実施している。また、三省合意の一部改正への対応については、「キャリア教育センター運営委員会小委員会」を設置したうえで具体的な科目変更等の検討を行い、2023年度からの実施に向けて必要な学内手続きや、学生向けの説明会を開催する等、学生のキャリア形成支援活動が大学の組織的な取組として運営されている。

【申請年度：令和5年度、申請分類：タイプ3（汎用的能力活用型インターンシップ）】

問合せ先

京都産業大学 共通教育推進機構（キャリア教育担当）  
 Tel:075-705-1754 E-mail: cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp

キャリア形成支援教育の基本的概念「産学協働教育」



学生のキャリア形成支援活動の概要

目的：卒業後に組織のリーダーとして国際的に活躍できる人材の育成を目的として、工学系の学生に対して、専門の枠を超えた実践的なキャリア形成支援活動を実施している。  
 対象：工学部2~4年次、工学院修士課程1・2年次、博士後期課程1~3年次 選択科目、参加学生：10名、事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：15日以上  
 概要：英語力、コミュニケーション力、リーダーシップ、応用力等の育成を目的に1か月以上の長期の海外企業へのインターンシップ研修を実施。

評価のポイント

- 育成する人材像を見据えたうえで、その実現に必要な能力育成に資する取組が事前学習の段階から構成されており、海外インターンシップにおいて高い教育的効果を生み出す努力が伺える。
- 長期間（1か月以上）の海外企業へのインターンシップ研修を実施。
- 安全・危機管理や学生のメンタルケアに係るFD研修及び講習会の受講をスタッフ及び教員に課すなど、大学の組織的な取組として、海外インターンシップの特徴を踏まえた指導を行う体制が整備されている。
- 学問的知識を実際問題に活用する能力など、向上すべき13の能力指標を予め規定し、派遣前後での変化を学生個人、受入先企業、指導教員、大学組織（工学研究院工学系教育研究センター）の4者で多面的に確認することで、教育的効果を把握している。

【申請年度：令和5年度、申請分類：タイプ3（汎用的能力活用型インターンシップ）】

問合せ先

北海道大学 工学研究院工学系教育研究センター（CEED）  
 Tel:011-706-7163 E-mail: ceed-ind@eng.hokudai.ac.jp



学生にはこれら13の能力指標の向上が期待される

- 学問的知識を実際問題に活用する能力
- 決断力、判断力、優先度決定力
- 新しい経験へのチャレンジ精神
- 解らないことを質問し、または教えを請う態度
- 問題を理解・把握し、または問題を見出す能力
- 他の人と連携協力して計画・実行する態度
- 創造性、新しいアイデアを生み出す力
- 専門分野での技量、技能（実験、解析、計算、設計など）
- 忍耐力、向上心
- 英語実践能力（会話、文書作成、英語による思考）
- 異文化理解、外国での行動、生活感覚
- 積極性、リーダーシップ
- コミュニケーション力

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的：卒業年次の産学連携・地域連携に基づく実践型プロジェクト等を中心に据えて履修の流れを軸とすることで、卒業年次において、それまでに学生各人が履修し培ってきた基礎知識を応用し、同時に課題解決チームを統合しながら多様な課題に対する解決策を見出して、解決に導く能力を修得する。

対象：工学部工学協創経営プログラム 4年次 必修科目、参加学生：25名、

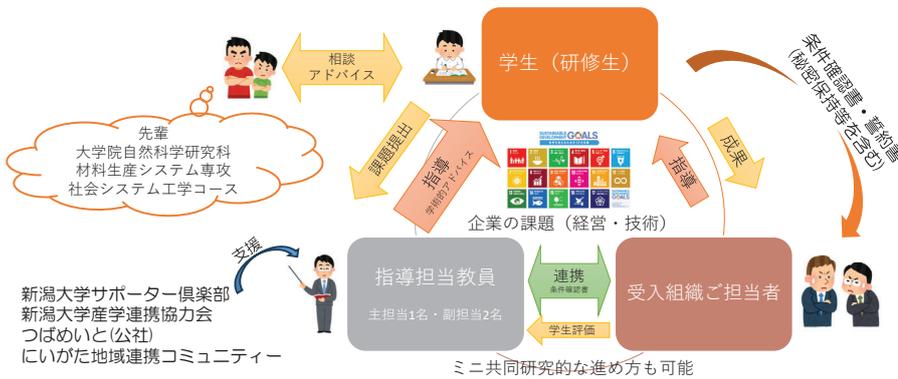
事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：72日

概要：実社会においては組織内の課題を解決するためには、工学のみならず各分野の技術と知識の利活用が求められることから、実課題に対し「観察」・「分析」・「解決に至る実務」を通して総合的「工学力」を修得するPBL型教育プログラム。卒業研修・卒業研究として実施。

評価のポイント

- 協創経営プログラムにおける4年次における必修科目として設置し、それまでに培った工学分野における専門的知識を駆使して組織（実習先）の課題解決に取り組む内容となっている。
- COC+事業に携わったコーディネーターを、協創経営プログラムの担当教員として配置し、インターンシップの運営においても中心的役割を担っている等、専門人材を適切に配置し、当該プログラムが大学の組織的な取組として実施されている。
- 同大学が地域企業との連携強化のために設立した組織と連携することで受入先企業を募る等、地元のコミュニティとの密接な連携によって、当該プログラムが経年的に実施されている。

【申請年度：令和5年度、申請分類：タイプ3（専門活用型インターンシップ）】



問合せ先

新潟大学 工学部学務係  
 Tel:025-262-6798  
 E-mail: gakumu@eng.niigata-u.ac.jp

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的：ディプロマポリシーで定義している「職業人としての心構えを備え、情報技術に裏付けられた実践力を活用し、地域社会や産業界における課題を解決する能力」を持つ人材像を育成するために実施されている臨地実務実習。

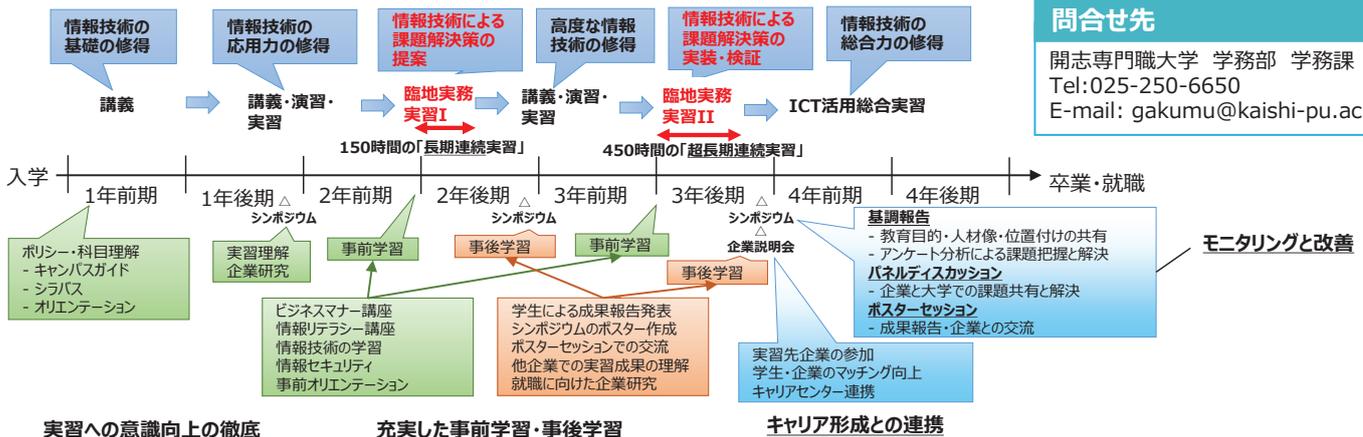
対象：情報学部2年次、3年次 必修科目、参加学生：122名、事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：約100日

概要：2年次（臨地実務実習I）では、情報技術による課題解決策とその計画を立案・提案し、3年次（臨地実務実習II）では、課題解決策の設計、実装、検証することを目標とした必修のプログラムとなっている。総括として学生、企業、教職員参加のシンポジウムを開催しフィードバックを行っている。

評価のポイント

- 大学での学習成果を実践で活用できるよう、実習がカリキュラムに位置付けられている。
- 合計で約100日間（2年次：25日間、3年次：75日間）の長期の実習期間を確保している。
- 学生のみならず、実習先企業や教員にもアンケートを実施したうえで、実施結果を分析することで、定性・定量的に課題を把握・評価し、当該活動にフィードバックする仕組みが整備されており、教育的効果を把握するためのPDCAサイクルを回す体制となっている。
- 情報学部臨地実務実習委員会を設置し、事務職員も当該プログラム運営に参画するなど教職協働にて当該活動を推進している。また、当該学部において、助教以上の全常勤教員が当該科目を担当しており、月一回の教授会や意見交換会等で、議論や情報共有が行われている等、組織的な取組として学生のキャリア形成支援活動の推進が図られている。

【申請年度：令和4年度、申請分類：タイプ3（汎用的能力活用型インターンシップ）】



問合せ先

開志専門職大学 学務部 学務課  
 Tel:025-250-6650  
 E-mail: gakumu@kaishi-pu.ac.jp

実習への意識向上の徹底

充実した事前学習・事後学習

キャリア形成との連携

## 学生のキャリア形成支援活動の概要

目的：高度な学術研究能力と高い実業的センスを併せ持つ若手研究者・学位取得研究者を育成するために、博士後期課程学生を対象として、イノベーション創出やプロジェクト型の研究開発に不可欠な研究におけるリーダーを養成している。

対象：博士課程全研究科 選択科目、参加学生：2名、

事前・事後学習を除いた企業等での就業体験日数：10日

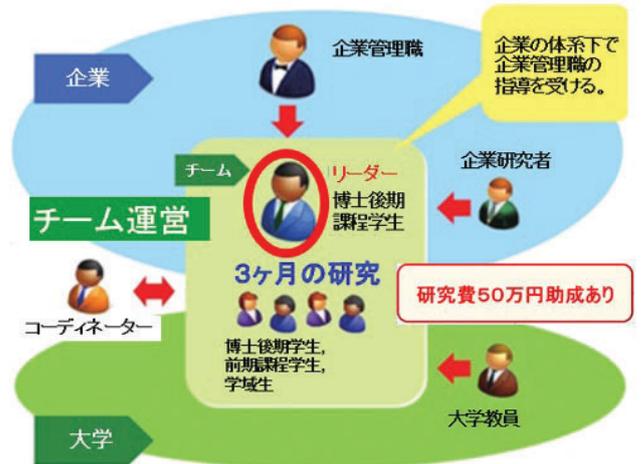
概要：3～4ヶ月の実習期間を設定し、企業からの課題提示を受けて、マーケット調査、研究計画・予算の立案、チーム編成、研究の進捗管理など、企業で行われる研究リーダーと同様の業務を経験し、インターンシップでは経験できない研究リーダーの役割を実践する内容となっている。

## 評価のポイント

- 本プログラムに参加する学生からなるチームで研究インターンシップに取り組む中で、企業体系の下で**実習先企業の管理職による指導**を受けながら、リーダーとなる博士後期課程学生が企業の研究リーダー・マネジメント業務（就業体験）を実践するというユニークな試みとなっている。
- 日頃から企業と連携し、研究プロジェクトを実行する際に必要な**予算確保**や学生のフォローアップ等を適切に行うために、**本プログラムの企画・運営を担う専門人材を設置**するとともに、学内でPDCAサイクルを回す体制が整備されている。
- 週報、日報に加え、**中間・終了時に企業と大学合同のラップアップミーティングを実施**するなど、**学生の学修効果のアウトプットが組織的に共有できる仕組み**を構成している。

【申請年度：令和5年度、申請分類：タイプ4（高度専門型インターンシップ）】

研究リーダー養成特別演習は、  
企業体系の下で企業管理職の指導を受ける



## 問合せ先

大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター  
Tel:072-254-8266 E-mail: gr-idec-jinzai@omu.ac.jp

令和5年度大学等における学生のキャリア形成支援活動  
表彰選考委員会 所見

今般、「大学等における学生のキャリア形成支援活動届出制度（旧：インターンシップの届出制度）」における取組の中から、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業に普及するのにふさわしいモデルとなり得る産学協働によるキャリア形成支援活動をグッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及するため、公募により、大学、短期大学及び高等専門学校が取り組まれている正規の教育課程におけるインターンシップ等のキャリア形成支援活動を募集いたしました。

その結果、令和4年度及び令和5年度に実施された取組について、大学から24件、短期大学から2件の計26件の申請がありました。

各大学等では、令和5年度から、三省合意の一部改正を踏まえて、学生のキャリア形成支援における産学協働の取組を4つの類型に整理した形で実施していただいていることと思います。今回は、この新たな整理に基づいた形で行う初めての表彰選考となりました。

令和4年度は、コロナ禍の影響が残り、実地による就業体験の機会が総体的に減少した中で、各大学が大学等における学びを実践の場で活用するために、綿密な注意を払いつつ、受入企業等の開拓と継続的な実施のための良好な関係構築に努めているなどの取組が多数見られました。

また、令和5年度は三省合意の改正内容が適用される初年度であり、過渡期ならではの事情が申請内容に表れていたと考えています。大学等では、4つの類型を踏まえた形での学生のキャリア形成支援活動の在り方がまだ検討中のケースや、既存のプログラムをまだ整理し切れていないケースもある中で、今回の申請に際しては4類型に沿った申請分類で応募する必要があったという難しさもあったのではないかと思料します。このような特殊な事情を鑑み、今回の選考に当たっては、申請分類についてグッドプラクティスを普及するという表彰制度の趣旨を踏まえながら緩やかに評価しました。

さて、今回の選考は、「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考基準」に基づき、

- ①就業体験を伴うこと
- ②正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③大学等の組織的な取組として位置付けられていること

- ④実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間が確保されていること
- ⑥大学と企業等が協働した取組となっていること

の6つの基準で書面による評価を実施しました。

選考の結果、最優秀賞として京都産業大学、優秀賞として北海道大学、新潟大学、開志専門職大学を選定しました<sup>1</sup>。これらの大学は、

- ・育成する人材像をしっかりと踏まえ、大学における組織的な取組として学生のキャリア形成支援に関する取組を推進しているという点や、
- ・事前事後の学習の実施のみならず終了後のアンケートの実施などにより課題を洗い出し改善するというPDCAサイクルの整備によって高い教育的効果を生み出す工夫をしている点

などを高く評価し、選定に至っております。

さらに、最優秀賞・優秀賞とは別に、大阪公立大学を選考委員会特別賞として選定しました。本件は、博士後期課程学生を対象として、産業界での研究開発におけるリーダーシップを養成するという点について評価しました。博士課程学生が、研究開発の加速とイノベーションの創出を担う人材として活躍できる場を拡大することは重要であり、このように、博士課程学生の持つ高度な課題設定・解決能力等を活かした多様なインターンシッププログラムが実践されることを期待しています。

最後に、少子化が急速に進展するなか、今後の社会を担う若い世代の育成は、喫緊かつ重要な課題です。新たな整理に基づいた学生のキャリア形成支援活動は、大学等における学修に極めて重要な役割を果たすものであり、今後、全国の大学等においてこれらの活動が着実に定着し、参考となる取組事例も増えていってほしいと考えています。一人ひとりの学生が社会的・職業的に自立し、自信と喜びをもって社会で活躍できるよう、より多くの大学等が、様々な企業や公共機関、団体と連携し、キャリア形成支援活動に取り組むことを期待しています。

令和6年3月22日

大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考委員会  
委員長 佐々木 ひとみ

<sup>1</sup> 優秀賞については、文部科学省学校コードの昇順で記載しています。  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰選考委員会 委員名簿

- 上野 恵美 下関市立大学 附属リカレント教育センター長  
キャリア委員会 委員長 教養教職機構 准教授
- 大谷 武士 全国中小企業団体中央会 労働政策部長
- 栗田 貴祥 株式会社リクルート 就職みらい研究所 所長
- 後藤 珠美 一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs本部 主幹
- 佐々木 ひとみ 学校法人東京家政学院 理事
- 宍戸 尚子 公益社団法人経済同友会 総務部調査役 兼  
一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会  
専務理事・事務局長
- 高瀬 和実 岩手県立大学 高等教育推進センター・学生支援本部 准教授
- 松高 政 京都産業大学 経営学部 准教授
- 山本 美奈子 山形大学 学士課程基盤教育院 准教授

計9名（敬称略・五十音順）